

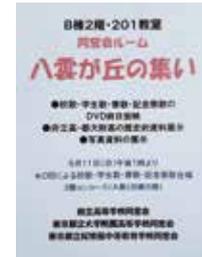


2019年(令和元年) 6月30日

発行：東京都立大学 附属高等学校同窓会 〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2 桜修館中等教育学校内 編集：同窓会報編集委員会

### 今号の内容です

- 1面 同窓会定期総会開く 2期生から42期生まで。熱心な質疑応答、意見表明がなされました。
- 2・3面 第4回ホームカミングデー 第18期生と43期生が多数集まりました。(下段に全員の記念写真があります)
- 4面 桜修館・鳥屋尾校長先生のあいさつ [都高時報]をホームページにアップ
- 5面 第6回「八雲が丘賞」は創作部が受賞
- 6・7面 旧制府立高から受け継ぐ歌
- 8・9面 「第70回記念祭」同窓会ルーム出展
- 10・11面 部活の思い出「剣道部」「美研」懐かしの恩師「黒羽先生」
- 12・13・14面 同期会、クラス会レポート
- 15面 事務局インフォメーション 2018年度事業・決算報告
- 16面 会費納入のお願い、訃報



## 同窓会定期総会

### 昨年10月21日に開催

3年ぶりの同窓会定期総会が、昨年10月21日午後2時から、桜修館の「多目的ホール」で開かれました。

当日は、来賓の桜修館中等教育学校長・鳥屋尾先生よりご挨拶をいただいた後、

**議案1 3年間の活動報告**

**議案2 同窓会の財政状況**

**議案3 今後の活動計画**

の順に報告および討議を行いました。

#### ●活動報告

- ①同窓会報は会活動の基礎として、年1回9000部を発行、配布している。
- ②名簿の管理は、会員総数14355名の内8268名、特別会員(恩師)157名の住所を保有。保有しているデータに関しては、同窓会の主催・公認イベントの案内、会報の発送のみに使用する、などの取り扱い方針を会則・細則で定めた。
- ③「八雲が丘ホームカミングデー」を、2017年度までに計4回開催した。
- ④旧制府立高、都大附高、桜修館の3校同窓会の連合体として、会会を継続。
- ⑤記念祭へは、毎年同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展、展示や歌のイベントを行っている。

- ⑥「八雲が丘賞」2013年の創設。毎年記念祭の閉祭式会場で表彰式を行う。
- ⑦桜修館開校10周年記念事業として八雲が丘学友会が正面玄関上の壁面に校章レリーフを取り付け寄贈。
- ⑧学生歌、寮歌、記念祭歌の継承・保存のため、伴奏譜を編曲・制作して保有。
- ⑨同窓生による桜修館生徒向けの講演会を2回開催。
- ⑩同窓会ホームページを使いやすく充実した内容に刷新・拡充した。

#### 同窓会の財政状況について

では、今号の事務局インフォメーションを、今後の活動計画については、ホームページを参照してください。



充実した討議が行われました



ホームカミングデー当日、校長先生、副校長先生も加わり、18期生と43期生で桜修館「多目的ホール」は熱気に包まれました

# 第4回「八雲が丘ホーム カミングデー」盛大に開催

第4回の「八雲が丘ホームカミングデー」が、昨年12月2日の日曜日に盛大に開催されました。

今回対象となったのは、卒業50年の第18期、25年の第43期のみなさんです。参加者が70名を超えた18期生に加え、43期生の参加が30人近かったことは特筆されます。卒業後25年といえは忙しい盛りの40代前半、なかなか集まっていただけないのです。

桜修館の卒業生は桜修館同窓会からの申し出もあり、卒業後10年の期を対象とすることにしました。したがって改めて3つの期が揃うのは2022年からになります。

パーシモンホール小ホールが抽選によらず使用することができなくなったため、今回の歓迎式典会場は桜修館「多目的ホール」。当日は18期、43期の幹事団が総出で会場を設営し、手作り感

溢れるアットホームな空間ができました。

理事長の歓迎の挨拶の後、桜修館の鳥屋尾史郎校長からご挨拶をいただき、共催の桜修館同窓会・伊藤正人会長からはお祝いのメッセージが届きました。スクリーンに昔の写真を

スクリーンに昔の写真を

## 初めて桜修館校内の会場で

佐藤親房・18期

昨年9月にパーシモン小ホールの予約が確保できなかったことがわかりました。ご承知のとおりホームカミングデーは18期生の故北原君が同窓会発展のため発案し、精力的に進めてきた同窓会行事です。これまでの3回及び特別版はパーシモンホール小ホールを会場として行ってきましたが、今回はその道が閉ざされてしまいました。

そこで、今回該当する18

映しだしたり、学生歌や寮歌を歌ったりしたところで、桜修館の校内見学へ。副校長先生の案内で見回りしました。

式典、校内見学の後は会場の都合もあり、18期、43期それぞれ別会場で同期会を開催、盛り上がりしました。

期生のクラス会幹事の皆さんに連絡を取って、善後策を協議することにしました。10月はじめには18期生クラス会幹事と43期生代表とで、12月初頭に桜修館中等教育学校の施設を借りて開催することとしました。併せて参加者への案内の内容を検討し、各幹事を通じて参加者への連絡を行うことになりました。

準備する期間がタイトなのと教育施設をお借りする



18期生全員集合。卒業後50年とは思えぬ若さです

ました。その結果、厳しい同窓会の会計に負担をかけることなく、むしろ若干の寄付をすることが出来ました。

今回は桜修館の卒業生は卒業から時間が経っていないので、もう少し先に延ばすこととして、18期生と43期生だけを招待しました。

HCDで披露するアルバム写真を抜粋していて気がついたことですが、18期はモノクロームに対して43期生はカラー写真で年代の経過をつくづく感じました。

参加者の感想では、しばらく途切れていた同期会が出来て懐かしいメンバーと再会できたこと、八雲が丘の桜修館をその目で見たこと、18期生と43期生が同じ場で時間や経験を共有したことなどが語られました。

余談ですが、18期生の幹事はいまだに反省会を繰り返して、来るべき次期同期会に備えています。



校歌の他に学生歌などを歌って



久方ぶりの再会に話が弾むこと



多目的ホールに椅子を並べて会場設営

# 懐かしくもあるが 知らない場所に来た感覚も

田中裕康・43期



校長先生も交えて、ホームカミングデー参加の43期生



ホームカミングデーのあと、渋谷での同期会は盛り上がりました

2018年12月2日に、第18期、第43期のホームカミングデーがありました。ホームカミングデーとは卒業生たちを年に1回母校に迎え校舎を見学したり、スライドを観て楽しむイベントです。

卒業して、ちょうど25年。それまでに高校を訪れたことはほとんどありませんでした。第43期は都立大学が同じ敷地にあった最後の世代であり、高校2年には都立大学は移転してしまいました。今回の校舎の第一印象は「変わっていない昔のままだな」という印象でした。セレモニーをやった場所や職員室の位置は昔と変わらなかったのです。

ただ、いざ見学をするのと、その心象は一変。エレベーターがあったり、改修を重ねた結果4階や地下に図書室が出来ていたり想像していませんでした。極めつけは体育館や校庭などは昔の面影を全く残していません。高校生活が昨日のように思える反面、確実に変化していくものがあると実感した一日でした。

## 第18期・同期会

18期生の同期会は桜修館に隣接する目黒パーシモンホール内の「YAGKUM O111」で、HCDの行事に引き続いて、70名ほどが参加して実施しました。HCDの歌声で昔を思い出したのか、すぐに打ち解けて、食事も忘れて、あちらこちらで話しの渦が出来ていました。2時間ほどの時間が非常に短く感じられ、定期的に同期会を開催するよう申し合わせて終了しました。終了後は会場を替えて都立大駅周辺でクラス会が開かれたようでした。



18期の同期会は超満員でした

第5回ホームカミングデーは、今年の10月13日の日曜日に決まりました。お招きするのは、第19期、第44期のみなさんです。詳細は直接ご連絡します。



18期の頃、卒業アルバムはモノクロだった。そして、ユニホームを見てほしい。「都立高」といえば私たちのことだった。私たちは母校を「都立」と呼んだのだ。



そろそろと桜修館校内見学に出発



テニスコートは昔プールがあった通りに



昔はなかったパソコン教室



充実した図書室

# ぶいさつ

都立桜修館中等教育学校長  
鳥屋尾 史郎



都立大学附属高等学校同窓会の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

着任一年目である昨年度は、桜修館生徒たちの活発な自治活動に驚かされました。校長室には各行事幹部の生徒たちが来室し、クラスマッチ、記念祭、合唱コンクールをどのように進めていくのか、説明してくれました。また、行事を運営する「幹部制度」が、どういう仕組みで成り立っているのか、「自由と自治」の精神の下、都立大学附属高等学校から引き継いだことは何かについても話してくれました。府立高等学校創立以来90年の歴史を強く感じた1年でした。

さて、この4月に卒業し

た8期生の進路について、お知らせしたいと思います。東大合格7名、京大合格2名、東工大合格7名、一橋大合格5名、国公立大医学部合格3名で、いわゆる難関国立大学合格は24名でした。昨年度が11名でしたので、大きく躍進したということができます。

また、国立大学合格は合計50名、難関私立大学合格131名(早59、慶26、上智20、東京理科26)、GMA RCH合格136名でした。8期生は高い倍率で桜修館に合格し、入学時から高い学力を6年間維持してきましたので、期待通りの進路結果であったということができます。

3月に8期生の合格体験を9期生に話す懇談会を開きました。どんな受験勉強をしていたのかについての興味深い話が多々ありましたが、ある8期生から、「基礎を身に付けるのは大切、でも何のための基礎なのか

理解し、基礎と基礎とを組み合わせて応用問題を解けるようになることがもっと大切」という話がありました。この話は受験勉強の方法として語られましたが、中高年に達した私の世代にとっても、含蓄のある話であるように感じています。テクノロジーとコンピューター

タがますます発達する時代を生きていくためには、柔軟でしなやかな対応力や、基礎となる知識や教養、知識を更新し続けられる持続力が必要で、身に付けた基礎を組み合わせて、実社会の答えのない難解な応用問題を解いていかねばなりません。そのことを明快に提示された気がしています。

結びに、令和元年の今年、都立大学附属高等学校同窓会のみならずの御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍を心よりお祈り申し上げます。今年度もどうぞよろしくお願いたします。



左から、創刊号、10号、50号、59号。川上祥一郎氏の創刊の辞には、「あくまでも公正」「あくまでも正しい事実を」「いつも変わらぬ厳しい主義」に基づき、「学園内の自治への啓発」と「世界平和の愛好」という二大主張によって編集している、とあります。

「都高時報」  
バックナンバー  
(1951年創刊号から  
1960年59号まで)を  
同窓会ホームページに公開

岩田末廣・8期

都高時報は、51年に川上祥一郎によって創刊されました。

60年59号までをpdfに変換して同窓会ホームページに載せました。各号ごとのハイライトを表にして、興味ある号を見つけやすくしてあります。都立大附属高校だけでなく、60年安保までの東京の高校生の動きを知る資料となっています。

記念祭や生徒大会についての記事がもちろん多いですが、大石修平先生など先生方からの寄稿も目立ちます。特筆できる記事は45号の「砂川ルポルターシュ」(吉田夏生)です。

欠号をお持ちの方はご提供ください。その後、新聞が再発行されたのかは知りません。ご存知の方は是非バックナンバーを公開して下さい。連絡先は同窓会事務局です。

# 第6回「八雲が丘賞」はユニークな活動の創作部に



第6回「八雲が丘賞」は、桜修館中等教育学校・創作部が受賞しました。表彰式は昨年9月10日、記念祭閉

祭式の会場で行われ、都立大学附属高等学校同窓会から表彰状と記念品代10万円が、創作部の皆さんに贈られました。

この賞は、桜修館の生徒の優秀な部活動や課外活動に対して、同じ八雲が丘で学んだ都大附高の同窓会から贈られるものです。これまで、日本文化部茶道部門、フィールドワーク部、写真部、美術部、科学部の皆さんが受賞しています。



第70回記念祭(2018年)で制作・発表された「CREATE=AIR」には力作が満載

## CREATE=AIR 「創作」無しでは…

「創作部」は存在そのものがユニークだと言えるのではないのでしょうか。独立して活動することが多い小説や詩などの文芸部門と、イラスト中心の美術部門がここでは「創作」の二文字で結びついています。結びつくことによって相乗効果をあげている、そこがユニークであり素晴らしいのです。

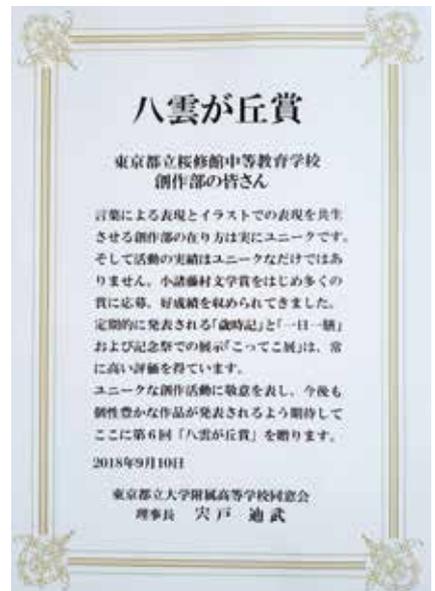
受け継がれてきた造語である「Create=Air」には、人が空気をなしには生きられないように、創作部員は「創作」無しには生きていけない、という意味が込められています。創作部員の意気込みを感じさせるものです。

## 多彩な発表活動と文学賞などへの作品応募

創作部の活動は多彩です。前期生は毎月イラストと詩の合作「歳時記」を発表。部誌「一日一膳」は2、3か月に一度作品集として発行されます。また記念祭における作品展示「こってこ展」は、ユニークな展示で毎年好評を博しています。

昨年の記念祭で制作・発表した『CREATE=AIR』(=写真)は、50ページを超える力作で、小説とイラストが文字通り満載でした。

また、小諸市主催「小諸藤村文学賞」、大妻女子大「女子高生青春文学賞」、山梨学院大「酒折連歌賞」、神奈川近代文学館「21世紀の乱れ髪・恋愛歌編」のほか「シヨ



トショート賞」、「家やまちの絵本コンクール」などの各賞に応募、優秀賞を受賞するなど好成績を収めています。

部長の一言「とても個性的で面白い部活」とは、短いけれど、いい得て妙です。今後も「創作」を通じていい作品を作ること、学校生活を充実した楽しいものにしてほしいと思います。

## 桜修館の今を示す「八雲が丘賞」

「八雲が丘賞」は、都大附高と桜修館を結ぶ絆の一つです。同時に、桜修館の今を知る大事なカギでもあります。今回は、どんな活動が受賞するのか、大いに楽しみます。

問いかける歌

佐藤文行（二期会会員）・17期

人は忘れたくない重要な記憶を歌に詠み、ときには石に刻んで残そうとします。残された歌には真剣に悩み生きた人の魂がこめられています。時がたちふたたびうたわれるとき、その歌びとの魂はあらたな命をえてよみがえるのです。

府立高等学校や都立の学生歌には、理想と不安が錯綜する青春期の命を懸けた根源的な問いかけがこめられています。世代を超えて共に唄える歌を持っていることは、しあわせなことです。みながそれぞれの青春時代を思い描きながら声を合わせ唄うとき、ぼくらはいつとき、ほどばしる青春のただなかでさ迷い、こたえを探しながら苦しみあがいた高校時代にもどるのです。

ています。なかには素人離れした名曲もあります。

なかでも旧制第十一回記念祭歌「銀扇空に」は特筆すべき名曲です。なじみのない方が多いかもしれませんが、むしろ他校からは注目されていたようです。メロディが自然で雄大。まるで「海ゆかば」のようです。

このほど伴奏をつけることで歌いやすくなりました。ベースンドルファー音源で録音した伴奏を作りました。いずれ同窓会のホームページで聴けるかもしれません。学生歌への「伴奏付け」は歌を残してゆくうえで重要な作業です。「かぞえ唄」や「荒城の月」は山田耕筰の伴奏がついて初めて芸術歌曲になったはずです。現在は十曲ほどを選んで伴奏つきの楽譜を作っておりますが、まだまだ名曲がいっぱい取り残されています。また、伴奏つきの歌集もできていません。ゆくゆ

くは歌集が欲しいですね。記念祭歌が作られなくなっただけで経つのでしょうか？時代が代わり考え方も変わってゆくことでしょう。桜修館の諸君もそろそろ自分たちの歌を作りたくなくなるところですね。

同期会や桜修館の記念祭などの機会を利用して「学生歌コンサート」を開くというのはいかがでしょうか？桜修館には優秀な父兄会コーラスが存在します。学生の校内合唱コンクールも盛んと聞いています。もしこのコーラスの応援を得られて合同コンサートが実現すれば、若い後輩たちの「学生歌を創ろう」という音楽意欲を刺激するかもしれません。



昭和15年（1940年）  
旧制第十一回記念祭歌  
銀扇空に

小坂 松彦 作詞  
梶原 嗣郎 作曲  
池田 正憲 作詞

一、銀扇空にひるがえす

消えせぬ雪の富士の嶺

皆發く壯年の

指號の胸に力あり

二、あゝ又遠し二千年

青史は古りて還らねど

霸心に燃ゆる若き身の

血潮はいかで果つべきや

三、非業の天に恨みては

破斬の劍に涙あり

長恨風に嘯げば

四郷の柱に應へあり

四、北斗に高くかざしては

尚武の腕にたぎる血や

あゝ十年の秋たけて

謳はむ今日の関の歌

**校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌集** 《残部僅少》

母校の開校を記念して、2010年に同窓生100人の参加により収録されたDVD。

**< 収録内容 >**  
全14曲(33分) 歌詞字幕、カード付  
吹奏楽：校歌(嗚呼西山の)、  
学生歌(青春といふ)、文乙歌(いざ友)  
合唱：校歌、学生歌(2曲)、文乙歌、  
第五寮歌、第八寮歌、新制第1回、  
第2回、第7回、第17回記念祭歌、  
乾杯の歌  
**頒布価格1,500円** (送料とも)  
お申し込みは同窓会事務局へ  
(「同総会への連絡方法」参照)DVD到着後、  
指定銀行口座にお振込みください。

現在、同窓会がデジタル伴奏譜をPDF化して保有している曲目は、左記の13曲です。これらのデジタル伴奏譜は、必要に応じて印刷して同窓生に提供することが出来ます。また、他に伴奏付けした曲があれば、同窓会事務局までご連絡ください。

デジタル伴奏譜を編曲制作した13曲

- ①校歌「嗚呼西山の」 1935年(昭和10年) 5月
- ②学生歌「嗚呼烈誠(れっせい)の」 1936年(昭和11年) 10月
- ③学生歌「青春といふ」 1938年(昭和13年) 10月
- ④旧制第9回記念祭歌「見よやローマの」 1938年(昭和13年) 10月
- ⑤旧制第10回記念祭歌「爽味(そうまい)かな」 1939年(昭和14年) 10月
- ⑥旧制第11回記念祭歌「銀扇空に」 1940年(昭和15年) 10月
- ⑦旧制第17回記念祭歌「八重なせる」 1946年(昭和21年) 10月
- ⑧旧制・文乙歌「いざ友」 1940年(昭和15年) 10月
- ⑨旧制・理乙歌「流るゝ月日」 1940年(昭和15年) 10月
- ⑩旧制・第八寮歌「春殘更(ざんこう)に」 1945年(昭和20年) 6月
- ⑪新制第1回記念祭歌「手をつなげ」 1949年(昭和24年) 10月
- ⑫新制第7回記念祭歌「吹きすさぶ」 1955年(昭和30年) 10月
- ⑬新制第9回記念祭歌「それ今天地は」 1957年(昭和32年) 10月





図書委員会は記念祭の期間中、古本市を開催しています



例年と比べると、いささか違和感の否めないゲートでしたが・・・

昨日、節目の70回を数える記念祭が挙行されました。幸い両日も晴天に恵まれ、記帳もそこそこに多数の親子連れが見学に散る光景が見られました。然しながら、中には明らかに『園児』と呼ぶべき幼い子供達が相当数含まれ、しかもその割合は年々増加している様に見受けられます。教育熱の高まりなどから無理からぬことなのかもしれませんが、自重してもらえないものなのでしょうか。

## 第70回 記念祭報告



受付のごった返し振りはまさしく例年通りです。



迫力満点、格闘技レベル。日本文化部の競技かるた



Tポイント前吹奏楽部の演奏



大音量、少照明がお定まりの軽音コンサート



立て看板に負けてなるかと幟も整列



キミが桜修館に入学するのは大分先だけど、頑張って！



鳥屋尾校長も歌集を手に、コンコースデビュー



文武両道を邁進する桜修館



首都大四年生四人組が八雲が丘に遠征…詳細は本文中で



今年はなかなかの入りだった『八雲が丘の集い』



いつまでも元気な歌声を聴かせていただきたい大先輩方です

**キャンパス異聞**

「八雲が丘の集い」のポスターに引き寄せられたかのよう  
に部屋を訪れた四人、都大  
附のOBと思いきや、全員首  
都大生とのこと。卒業記念に  
『未だ見ぬ八雲が丘キャンパ  
スを見聞し、そこから南大沢  
キャンパスまでのおよそ40キ  
ロを踏破する』こととしたと  
話す。

ぜひとも来年の記念祭で再  
会したいものだ。



第**70**回記念祭スローガン  
『作り出せ みんなが輝く 未来都市』



70回プログラム表紙&うら表紙



第6回八雲が丘賞は「創作部」に決定

## 剣道部の思い出

嶋津和行・26期

私が入部した頃の剣道部は私の6つ上の代(20期)の方たちが立ち上げ直した新興クラブでした。そのためか部の予算は少なく、専用の道場がある訳でもなく、週2日(月・金)、体育館での稽古。水曜日は駒沢公園へ走り、筋トレと柔軟を実施していました。当時、肥満児体質の私は走るのが大の苦手、周回路に入る頃には一人脱落。雨が降れば中止かと思えば、さにあらず、古い大学校舎の暗い階段を40往復。あれは梅雨の頃かな、流れ落ちる汗が染みのように石段に黒く広がったのを記憶しています。

剣道部で一番の思い出は毎年OBも参加する長野県飯山市戸狩での夏合宿でした。暑い盛りに防具と竹刀、着替えなどの大荷物を抱えて、特急電車とローカル線に乗る継いで戸狩に向かいました。

夏は面を被るだけで大粒の汗が噴き出し、汗を吸った道着も次第に重くなり、体力をむしり取ります。素振りから始まり、打ち込み、面を被っての掛かり稽古、そして、最後には円陣を組み、一人の掛かり手が元

剣道の練習は厳しかった。私自身は小学校高学年から剣道を始めましたのですが、竹刀が三六から三八(三尺八寸)に変わって扱い難かったこと、防具をつけてからの稽古が大変。所詮、中学を出たばかりの体力とスピードでは太刀打ちができず、上級生にいいように叩



1973年夏合宿。前列中央工藤先生、前列右端西山先生

かれて、時には体当たりを食らって床にぶっ倒れていました。剣道部で一番の思い出は毎年OBも参加する長野県飯山市戸狩での夏合宿でした。暑い盛りに防具と竹刀、着替えなどの大荷物を抱えて、特急電車とローカル線に乗る継いで戸狩に向かいました。夏は面を被るだけで大粒の汗が噴き出し、汗を吸った道着も次第に重くなり、体力をむしり取ります。素振りから始まり、打ち込み、面を被っての掛かり稽古、そして、最後には円陣を組み、一人の掛かり手が元立ち(受け手)を次々に代えて挑みました。一人相手20秒から30秒、それを時には10人に対峙し、面や胴打ち、打ち込んだ後はさっと走り抜け、振り返って次の技を。少しでも遅れると円陣を組んでいるメンバーから罵声が飛び、竹刀で叩かれ、時には体当たりを食らいます。

しかし、開け放たれた道場の窓からは、時折、高原のさわやかな風が吹き、汗をぬぐってくれました。稽古が終わり面を外したときの爽快感は何物にも代え難いものでした。

当時の顧問は英語の西山節先生、合宿には工藤好吉先生も同行されました。工藤先生は剣道の有段者、真っ黒な顔にこやかな笑顔を浮かべながら、厳しい打ち込みをされたのを記憶しています。最終日の夜に各々が剣道に対する思いや成果について真剣に話をしたこと、思い出深いです。

私は卒業後も3年間は戸狩の合宿に参加しましたが、4年目は後輩たちは校内で合宿し、食事も自炊、なぜか中止になったんだっけ?卒業後も繋がりがあった剣道部ですが、いつしかそれも絶えていきましたが、昨年4月にOB会を開催しました。久しぶりにあった顔はすぐにはわからなかったけど、面を被ったときの横金から覗く眼孔や竹刀を構える姿勢がすぐに浮かびあがってきました。



2018年OBOG会

集まったメンバーは、26期から31期まで、この中で現役の剣士は一人だけ、それも大学生時代に日本選手権に出場した女性剣士です。次回は上の代や下の代に声を掛けて集まろうと約して散会となりました。

## 美研の旅

山内通生・18期

湖青し  
忘れ路の文  
さざ波に

高一の夏合宿、精進湖の航跡です。湖畔の思い思いの場所を描くつかの間の休み時間、同期の岡本あさ子さんをお誘いして漕ぎ出した青春でした。宿の西湖ユースホテルで、2年生の平林和幸さん(17期)が外人父子に英語で話しかけていました。平林さんは話し好きでユーモラスな人柄でしたが、読み書き・文法が主流だったあの時代、都高の長いフルネームを英語で紹介していたことに感心したものです。

半世紀のちの2014年1月、ニュースで或る計報が伝えられました。前武蔵大学学長という肩書に心当たりはありませんでしたが「ひらばやしかずゆき」というお名前、専門は近代フランス詩・文学、ヨーロッパ美術工芸であると……まさ

かと思いましたが、「美術」の二文字が気にかかり、あらためてウィキペディアの「都高の著名な出身者」をたどってゆくと、そこに「学長」のお名前を見つけたのです。2016年10月、早大大学院での「柳家小三治一門会の夕べ」でのことでした。人間国宝小三治師匠の一行は、悠然とした独自の「間」で「まくら」を築ませたあと、いきなりその名前が飛び込んできたのです。そして「ひらばやし」は面白おかしく、読み方を変えて何度も何度も繰り返されました。この夜の演しものは知られていなかったこともあって、突然の「平林さんの出現」に私の驚きは大きく、至芸を楽しみながらも不思議の思いでいっぱいでした。これまで私の身近の「平林」さんは、美研のこの先輩おひとりだけでしたからなおさらです。

一連の出来ごとや美研の思い出をブログに綴ったと



# 同期会・クラス会レポート

## 第2期同期会

日時：2017年11月8日

会場：都立大駅前「ひのや」

出席：18名

2期生諸君

「五月雨の晴れ間うれしく」と、十三才の我々が自信をもって答案に書いた、昭和21年春の輝かしい入学試験の日からすでに70有余年。大変な時代を昭和から令和へと格闘しつつ生きてきた我々も、いつしか平均寿命をどっくに越え、毎年必ず数人の友を失うようになりました。

もはやこの同期会は出会いの機会ではなく、毎年が永遠の別離となるかもしれない危うさを秘めた未練の会。そこ



で今年は、多彩な同級生を心置きなく味わえるよう、たっぷり3時間半、往時を想いつつ勝手次第に戯れる「べうたら乱交同期会」の趣向。

この佳き日に集まったみんなが、自由によったりと、今生のお別れになるかもしれない逢瀬を楽しめるよう、幹事一同心から望んでいます。此の世には誰が最もしぶとく生き残るか、トトカルチョもやろう！

\*\*\*

私たち2期生のうち、男は敗戦の翌年1946年に、7年制都立高校尋常科・旧制最後の生徒として入学した120名。女は3年後の1949年、アメリカ占領軍の男女共学命令に従うため急募されたのに応じ、八雲が丘キャンパス最初の女子生徒として慌たたく編入学をした20名。ちなみに同級生同士の結婚はなく、男は下級生と一人、女は2人が上級生と結ばれた。

学制改革で都立大附属高校となり、卒業は新制の第2期。あれから60数年の歳月が経ち、我々も、キャンパスも変貌し、多くのものが85歳になった今回の同期会、もはや、あの世に逝った者も多く、出席できた爺婆はわずか18名だった。

さて諸君、長命を享けて、これから何を為すべきか？ 将来を睨んだ抱負は如何に？

五体に故障を持つ者もあって、「来年は蕎麦屋の階の畳敷き座敷に寝転がって呑む、コロコロ同期会にしよう」との声しきり。

おい！ 望みが小せえぞ！ 老人よ、大志を抱け！ 赤穂ボランティヤ如きに負けるな！ 老いに挫けるな！ 時代を蹴飛ばせ！ 百歳を目指して突っ張れ！ 昭和一桁生まれの意地を見せろ！

(吉松安弘・記)

## 第6期同期会

日時：2019年4月18日(木)

会場：都立大学駅「ひのや」

出席：29名

今年の6期の同期会は、4月18日(木)に開催した。会場は都立大学駅近くの



「ひのや」(日本料理)で、出席者は29名だった。最近の新宿で行なってきたが「母校の近くも良いのではないか」という声があり、今回の会場が決まった。

久しぶりに都立大学駅を降りた者の中には、母校の近くまで足を運び、思い出にふけた者もいた。今年はいつも同期会に華を添える音楽は演奏者の欠席で行われず、出席者を残念がらせた。

近況報告で病気の話が多くなることはやむを得ない処だった。最後に、来年もまた4月に同所で開催することを決め散会した。

(金子順治・記)

## 第7期傘寿記念同期会

日時：2018年11月11日(日)

会場：四谷・主婦会館「シャトル」

出席：42名

小春日和のこの日。80年を生き延びた旧友が元氣な姿で集いました。

西は福岡、北は仙台、遠くハワイからも駆けつけてくれました。卒業してから同期会参加が今回初めて、実に60年ぶりの再会という学友もいました。

私たちは敗戦の年の4月に当時の国民学校に入学。戦争の惨禍を辛うじて記憶する世代です。そして戦後の混乱を潜り抜けて1954年の春から八

# 同期会・クラス会レポート

雲ヶ丘で学びました。

正午。笑点が好きな小澤正英(C組)の軽妙洒落な司会で会は始まりました。開会の挨拶は、砂川闘争の生き残り・吉田夏生(A組)のアジ風で、皆一瞬



緊張。鬼籍に入った38名の友に対する黙祷1分。

続いて九州にあって今も鉱山研究の第一線で活躍している、よか男・井澤英二君(A組)の音頭で乾杯。

以後、スピーチ無し、名前だけの自己紹介をした後たっぷり時間をとった歓談に入り、三々五々、話は尽きずアツという間に時間が流れました。

終盤。「校歌」「文乙歌(いざ友)」を

合唱。リードはC組の鏡目(旧姓中野)卯女。元氣発刺は今も変わらず。ウクレレ伴奏は小林力(B組)。酸素ボンベ携帯にもかかわらず熱演。

吉田の閉会挨拶の中で次回開催の賛否を問ひ、賛成多数で再来年の晩秋に決まりました。

午後2時すぎ再会を期して名残惜しくも散会しました。

(B組・田中克己・記)

## 第13期同期会

日時：2018年10月27日

会場：めぐろパーシモンホール

「YAKUMOKAI」

出席：40名

第13期の同期会は、21世紀に入ってから毎年開かれています。参加者は40人から50人余り、古稀記念の2014年は60人を超えました。幹事は各組の持ち回りで。

昨年の秋はA組の担当で、前年に引き続き「YAKUMOKAI」で開催されました。久しぶりの顔もあって盛り上がり、毎年来ていた顔が見えずに心配したり、いつもながら時間の経つのが速いこと。

会場のレストランに大きめのスクリーンとプロジェクターを持ち込み、同窓会が制作した校歌、学生歌、寮歌、

記念祭歌のDVDを映しだして、全員で何曲か歌いました。校歌もなかなかいい歌ですが、学生歌「青春といふ」はいいですねえ。旧制文乙歌「いざ友」も、歌詞を見ないでも歌える歌です。



私たち13期の3年間は、旧制の名残が色濃くあった1960年代の初め。今や当時の面影を残す建物、景色は全く残っていませんが、歌を歌えばあの頃がよみがえってきます。来年はB組が幹事、元気で再会したいものです。

## 第16期G組クラス会

日時：2019年2月16日

会場：渋谷「パンダレストラン」

出席：13名

2年毎に開催していたクラス会ですが、

毎年やってもいいんじゃないの？との意見が昨年だされ、今年も2月に行われました。出席は13名。でも近況報告は沢山送られてきており、身近に感じながら読ませてもらいました。出席者の報告も、闘病だの夫婦での時間の過ぎ方だの、歳相応の話でゆったり過ぎました。

高校時代は付き合ひのなかった人たちとも話してみると「面白い奴だなー」となかなか楽しい時間が過ぎます。来年は寒い2月でなく4月頃の予定です。

(兼田一晴・記)



都立大学附属高校 16期G組 クラス会 2019-2-16

## 第22期D組クラス会

日時：2018年11月17日(土)

会場：「ライオン渋谷マーク

シティ店」

出席：18名

# 同期会・クラス会レポート

1年振りのクラス会を、前回の横浜から会場を想い出深い渋谷に移して開催しました。また、今回からクラス会幹事を岩崎君と小柳さんが担当する事になりました。



最初にクラス担任の前澤様からお話があり、その後、前クラス会幹事の内田から挨拶と来年5月開催の同期会パーティの案内が行なわれた後に、歓杯の音頭により会がスタートしました。パーティ参加者を見渡せば、65歳に到達した者が多く、さすがに現役を続けているものが減ってきており、ひとごとだと思っていた前期高齢者の領域に皆が踏み込んで来たことを実感しました。

各自近況報告では、この一年間で変化した生活状況あり、趣味が本格化し

て楽しい人生を送っている級友ありと興味深い話が続ぎ、楽しい時間が瞬間に過ぎてゆきました。次回開催が楽しみにクラス会となりました。

(内田 稔・記)

## 第22期 F組クラス会

日時：2019年4月27日

会場：東京競馬場貴賓室

出席：19名

5年前、遷厩を記念して、学年会が開催されました。その時は、卒業以来初めて会う仲間もいて、大いに盛り上がりました。しかし、病をおして参加してくれた一人、はもういません。青春時代を共にした仲間とは、もっと会



いたいどの思いを強く持ちました。それからは、年に2〜3回クラス会を開くようになりました。オートファジー現象の発見でノーベル賞を受賞した大隅教授の研究を、電子顕微鏡分野で支えた研究者もいて、囲む会も開きました。素晴らしいのは、毎回20人以上参加していることです。

その流れで、F組ゴルフコンペも開くようになりました。毎回3組の参加で、もう4回開催しました。その結果発表会を兼ねて、また19人が集まりました。場所は府中競馬場の貴賓室で、特別な場所でのドレスコード付きの昼食会です。そんな貴重な経験が出来るのも、クラスメートのお蔭です。損得無し楽しい仲間との交流は、この先もずっと続けてゆきたいと思っています。

(幹事・片山隆、福井美登里)

## 第43期 幹事会

日時：2019年4月12日

会場：「八吉」渋谷南口二の丸店

出席：13名

卒業して26年経っているのに、まるで先週まで共に学んでいたかのような微妙に遅れてお店の部屋に入ると「久しぶり」「ごはなへ」「あまた来た」「の声。全く違和感なく集まり、極々普通に言葉を交わし、場に溶け込み始める時間。



昨年喜ばれにホームカミングデーをきっかけに同期会を開催。その後、各クラスの有志で幹事会として改めて発足。今回はその初会合で集まる。話の中身は、幹事会とは程遠い思ひ出話。いや、妄想話なのかもしれない。

各クラスの有志だけあって、当時は部活も違つて、じっくり話したこともない。お互いどのよう呼び合っていたか、記憶も曖昧。

そんなメンバーが集まったのに、盛り上がり心地よい時間が過ぎる。気が付けば終電間近。当時と変わったのはシューズが酒に変わっただけだった。都大附という場で共に成長したことが、自然と価値観の共有になるのだろう。次回も幹事長、期待しています。

(横川一樹・記)

# 事務局インフォメーション

## 2018年度事業報告

3年に一度の同窓会総会を10月に開催しました。出席者は1期から54期まで幅広く、3年間の活動の報告に続き、今後の同窓会活動の在り方など活発な議論が交わされました。

2018年度の会報は、例年通り9000部を印刷、6月30日に発行し、会員・特別会員(恩師)に約8500部を送付。ほかに桜修館教職員、PTA、桜修館同窓会役員などに配布しました。

第70回記念祭には、同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展、合唱イベント「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌を歌おう」を実施しました。第6回「八雲が丘賞」には創作部を選出、記念祭閉祭式の会場で賞状、記念品代を授与しました。

ホームカミングデーは、第18期生、43期生を対象に第4回が開催されました。今回パーシモンホールが確保できなかったこともあり、歓迎式典は桜修館校内で実施しました。

昨年度、伴奏譜をつけた旧制府立高の学生歌・寮歌・記念祭歌などの楽譜をデジタル化して、いつでも使えるようにしました。

八雲が丘学友会は、年4回の会合を継続し、旧制府立高、都大附高、桜修館の3校同窓会としての結束、継続を図っています。

## 2018年度決算報告

2018年度の決算は、右表の通りです。結果的に収支は均衡のとれた状態となっています。会費収入は240万円弱で1200人に近い会員からの納入がありました。一方支出は、ホームカミングデーの会場費がかからなかったこと、懇親会関連費が収支ゼロだったことなどで減となりましたが、返信はがき封入による会報費増、支払い手数料の増などで、前年比約10万の減にとどまりました。

会報発行にかかる経費が支出の8割近くを占めている状況から脱却し、活動の幅を広げるためには会費収入増が不可欠です。より多くの会員の皆様のご協力をお願いいたします。

## 2018年度中の会議ほか

2018年	3月15日	拡大会報編集委員会
	5月19日	2017年度会計監査
	5月26日	八雲が丘学友会第33回会議
	7月7日	2018年度上期「理事・監事・評議員会議」
	9月1日	八雲が丘学友会第34回会議
	9月8、9日	第70回記念祭「八雲が丘の集い」出展
	9月10日	第6回「八雲が丘賞」表彰式
	10月21日	同窓会定期総会
	12月2日	第4回「ホームカミングデー」
	12月8日	八雲が丘学友会第35回会
2019年	1月26日	2018年度下期「理事・監事・評議員会議」
	2月16日	八雲が丘学友会第36回会議
	3月15日	拡大会報編集委員会

## 2019年度役員

理事長	穴戸 迪武 (13期)	常務理事・名簿管理担当	石川 恵子 (35期)
常務理事・事業担当	佐々木浩二 (15期)	常務理事・会計担当	下村 聡美 (43期)
常務理事・ホームページ担当	嶋津 和行 (26期)	監事	箕原 利憲 (11期)

【表Ⅰ】 2018年度貸借対照表(財産目録)  
2019年3月31日現在

科目・摘要	金額(単位:円)
1、資産の部	
現金及び預金	-
現金	-
みずほ銀行普通預金	1,015,777
みずほ銀行定期預金	5,005,793
ゆうちょ銀行当座預金	4,039,738
ジャパンネット銀行普通預金	1,344,487
現金及び預金 計	11,405,795
資産 計	11,405,795
2、負債の部	
未払金(理事長立替未払金)	-
負債 計	-
3、正味財産の部	
前期繰越正味財産	11,404,775
当期正味財産増減額	1,020
正味財産計	11,405,795
負債・正味財産計	11,405,795

【表Ⅱ】 2018年度正味財産増減計算書  
2018年4月1日～2019年3月31日

科目・摘要	金額(単位:円)
I、經常収益	
1、受取会費	2,393,473
2、DVD等販売収入	2,500
2、利息収益	20
經常収益計	2,395,993
II、經常費用	
1、会報費	-
会報原稿作成費	116,640
会報印刷製本科	781,099
会報通信運搬費	1,003,042
会報費計	1,900,781
2、ホームカミングデー費	-
懇親会費収入	-
懇親会費支出	-
案内送付先作成送付費用	-
会場等賃借料	-
ホームカミングデー費計	-
3、記念祭費	-
通信運搬費	-
雑費(表彰金等)	142,216
記念祭費計	142,216
4、經常管理費	-
通信運搬費	17,815
支払手数料	230,801
会議費交際費	94,330
消耗品費	7,330
雑費	1,700
經常管理費計	351,976
經常費用計	2,394,973
当期正味財産増減額(經常損益)	1,020

監査報告:

財務諸表、帳簿、証券等を精査し、上記決算書に

財務諸表、帳簿、証券等を精査し、上記決算書に誤りがないことを確認します。

2019年5月14日

監事 箕原 利憲 

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

事務局インフォメーション

年会費 2000円 納入のお願い

財政基盤を安定させ、より幅広い活動を展開できるよう、会員の皆様のご協力をお願いいたします。今回納入をお願いするのは、2019年度の会費 2,000円です。

3年会費 5,000円は廃止されています。  
次の方は、納入していただく必要はございません。

- ① 特別会員の先生方
- ② かつて終身会費 30,000円を納入された方

①②の方には、会費払込取扱票が同封されていません。万一同封されていたら間違いですのでご容赦ください。事務局までその旨ご連絡いただくと助かります。

<会費納入の方法>

● ゆうちょ銀行、コンビニ  
同封の払込取扱票をお使いください。

● 銀行振り込み  
ジャパンネット銀行 すずめ支店(支店番号002)  
普通預金 6271398  
(口座名義) トウキョウトリツダイガクフゾク  
コウトウガッコウドウソウカイ

ATMから振り込む場合およびネットバンキングご利用の場合は、振り込み人の名前を修正して、名前の前に「卒業期・クラス」を入れてください。

(例=13Aトリツタロウ)

同窓会への連絡方法

住所の変更、訃報、その他の同窓会への連絡は下記のいずれかの方法でお願いします。

● インターネット  
同窓会のホームページの右下に「Contact us」ボタンがあります。クリックするとメールフォームが出ます。

● 郵送  
〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2  
都立桜修館中等教育学校内  
都立大学附属高等学校同窓会

または  
〒152-0002 東京都目黒区目黒本町4-23-6  
都立大学附属高等学校同窓会事務局  
宍戸方



編集後記

ひょっとして初めて? 16ページの会報となりました。いかがでしょうか。会報は同窓会活動の背骨のようなもの。今後も充実した内容の会報にしたいと考えています。

旧制以来の学生歌などをどのように継承・保存していくかは、同窓会の課題の一つです。制作した伴奏譜13曲、ご利用ください。

今年の第71回記念祭は9月7日・8日です。同窓会ルーム「八雲が丘の集い」でお待ちしています。

ホームカミングデーは10月13日に「第5回」を開催します。第14期までの卒業生対象の「特別版」も予定しています。対象の期の方、どうぞご期待ください。

来年の同窓会報も6月30日発行予定、原稿締め切りは4月30日です。ぜひ原稿をお寄せください。

- 同窓会報編集委員会
- 13期 宍戸 油哉
  - 14期 川田 秀文
  - 21期 根岸 之夫
  - 26期 嶋津 和行
  - 35期 石川 恵子
  - 43期 下村 聡美

期・組	旧姓		
数学	浅沼 清先生		2017年7月
国語	野村精一先生		2018年4月
1B	河野 利通		2018年3月16日
1B	五藤 麗		2015年11月27日
1B	鈴木 治		2018年4月9日
2A	堀内 茂男		2017年11月20日
2A	山口 祐司	会田	2017年11月5日
3A	佐藤 良行		2017年9月26日
3B	高瀬 昭夫		2017年7月14日
4A	西山 正		2018年6月19日
4C	齋藤国司郎		2018年9月23日
5A	江口 明秀		
5A	清水 守		
5A	田原 彰		2018年3月24日
5A	井出 正子		
5B	向野 元昭		2018年4月22日
5C	福原 包美		2017年8月17日
7A	今川 康正		
7A	岸本 成雄		
7A	小坂順之助		2016年3月15日
7A	篠原 士士夫		
7A	大野 京子		
7A	島村 妙子	川口	2017年
7A	落合 和子	杉崎	2017年12月22日
7B	雨宮 正		
7B	加藤 高春		
7B	藤間 丈夫		
7B	平山 修		
7B	広瀬 興郎		
7B	西岡 和子	花岡	
7C	陰山晴一朗		
7C	杉山 裕一		2009年8月24日
7C	中村 昌平		
7C	宮脇 俊彦		
7C	吉原健一郎		
8B	丸山 健人		2017年9月23日
8C	唐仁原孝之		2018年11月
9B	奥野 和彦		2019年4月2日
11C	佐古 倫平		2007年5月
13B	湯本 久		2002年2月28日
13D	北川 峰子	高木	2014年
14A	前田 義之		2016年4月
15B	内野 裕子	奥田	2018年4月10日
15D	松尾 敏		2015年11月7日
15D	吉村 憲二		2017年
17D	和田 良一		2018年4月5日
17F	丸山 廣美	相澤	2016年4月30日
18B	青木 耕治		
18B	内田 順久		
18B	塩田 和夫		
18B	下島 信二		
18C	岡本 進		2018年2月17日
18D	今井 嘉人	(旧名均)	
18D	杉崎 晴男		
19B	鈴木 保雄		2017年9月23日
19D	伊藤 隆		2017年7月1日
19F	吉田 隆		2016年8月
21F	服部 祐二		
22A	鈴木 雅之		2018年2月9日
22C	名取 裕		2018年9月
22C	宮崎 正		
22E	高貴 一誠		2017年9月17日
24A	生田 茂樹		2015年4月11日
26C	近藤慎一郎		2015年9月23日
28C	猪野 哲郎		2016年
28C	大塚 一生		2019年2月9日
35A	猪野 智子	江崎	2018年9月30日
54F	海老原亮平		2017年5月15日

同窓会事務局に連絡のあった方のみ掲載しています